



施策の概要

概要 背景 取組 成果 まとめ

基本政策（1層） 活力と魅力あふれる力強い都市づくり

政策（2層） 臨海部を活性化する

施策（3層） **臨海部の戦略的な産業集積と基盤整備**

直接目標 臨海部の立地企業を増やし、生産活動を活発にする

主な事務事業

- 国際戦略拠点地区整備推進事業
- サポートエリア整備推進事業
- 臨海部へのアクセス向上推進事業
- 臨海部交通ネットワーク整備事業
- 羽田連絡道路整備事業
- 臨海部活性化推進事業

実施計画に位置付けた成果指標

成果指標①		川崎区の従業者一人あたりの製造品出荷額			
算出方法	工業統計調査結果より算出				
指標の考え方	臨海部活性化の目的は、立地企業の業績が上がることであり、1人当たりの製造品出荷額等の変化を見ることで、生産人口減少下においても、生産性の向上により臨海部企業が活性化しているかを測ることができる。				
指標の目標値	1億4,500万円 (H26)	1億5,700万円 以上(H29)	1億7,000万円 以上(H33)	1億8,400万円 以上(H37)	
目標値の考え方	生産人口の減少や石油業界再編を踏まえ、生産性の向上等により現在の水準を維持することが重要と考える。一方で、国がインフレ目標を2%に設定していることから、年2%以上の増加を設定する。				

成果指標②		キングスカイフロント立地事業所累計数			
算出方法	H27.3末現在で進出が決定している企業・研究機関等の数				
指標の考え方	臨海部活性化のトリガーと位置づけている殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける立地企業数の変化を見ることで、国際戦略拠点形成における集積度を測ることができる。				
指標の目標値	13事業所(H26)	22事業所以上 (H29)	30事業所以上 (H33)	34事業所以上 (H37)	
目標値の考え方	今後、国際戦略拠点として研究開発機関の集積を進める必要があることから、年間で第1期は3事業所、第2期は2事業所、第3期は1事業所の新規進出を目標値に設定する。				



川崎臨海部の形成

- 日露戦争後、日本の産業資本が確立。成長拠点の東京芝浦と横浜貿易港の間にある川崎に企業が次々と立地
- 1913年、実業家の浅野総一郎が、大型船が泊まれる港の整備及び川崎・横浜にまたがる臨海部の埋立に着手
- 1950年代に埋立事業及び企業誘致が進展し、日本最大級のコンビナートとして日本の高度経済成長を牽引



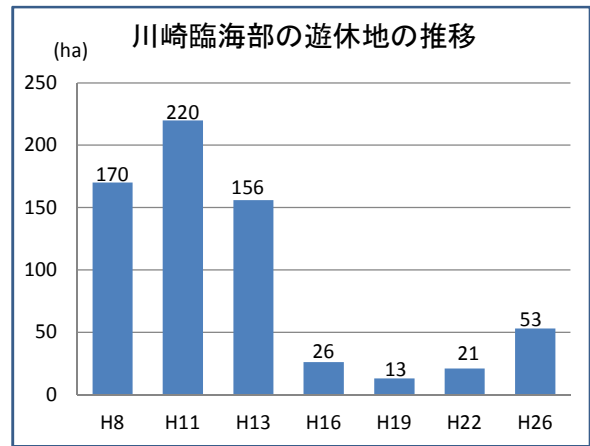
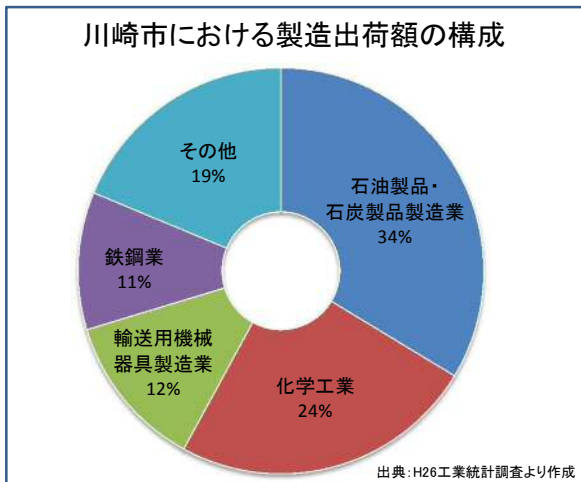
出典:Port of KAWASAKI(2014年3月発行)



川崎市の産業構造と川崎臨海部の遊休地化

概要 背景 取組 成果 まとめ

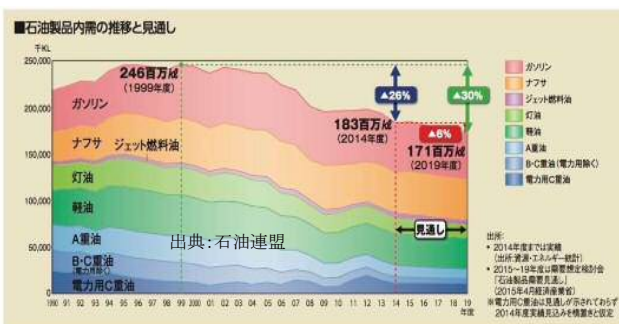
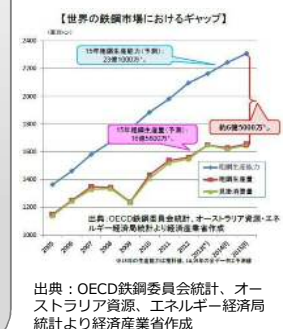
- 本市の主要な産業分野は、石油・石炭製品製造業、化学工業、輸送用機械器具製造業及び鉄鋼業であり、特に石油・化学については、その割合の高さから、現在でも本市の基幹産業である
- 企業の国際的な分業化の進展など産業構造の変化により、工場が海外や地方へ移転するなど川崎臨海部の遊休地が顕在化
- 平成8年度以降の推移では、平成11年度の220haをピークに年々減少傾向にあったが、平成26年度には平成22年度比で約2倍に増加している。



現在の基幹産業の状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 石油精製・石油化学を合わせると、約590haで生産活動を継続中(今後、JXTGによる製造設備の統合が予定される)。一部、未利用の設備があり、設備老朽化が進む
- 川下の化学メーカーでは幅広い高付加価値製品や水素エネルギーを活用した事業など新規プロジェクトが進む
- 鉄鋼産業は、約520haで生産活動を継続中(今後、土地の一部について利用転換が予測される)。また、設備老朽化が進む
- 川崎臨海部には首都圏の一般家庭の消費電力に相当する発電量を有し、石油関連企業等のエネルギー企業が集積している



	摘要 (単位)	2014年	2015年	2016年	2020年
		(実績)	(予想)	(予想)	(予想)
国内需要	粗鋼換算見掛消費量輸出量 (百万トン)	72.9	68.3	70.5	68.4
輸出	製品・半製品輸出量 (百万トン)	41.3	41.4	42.8	43.8
輸入	製品・半製品輸出量 (百万トン)	6.7	5.2	4.3	7.7
国内生産	粗鋼生産量 (百万トン)	110.7	106.5	109.0	104.1
グローバル需要	粗鋼換算見掛消費量 (百万トン)	1,662.9	1,626.4	1,657.0	1,823.3

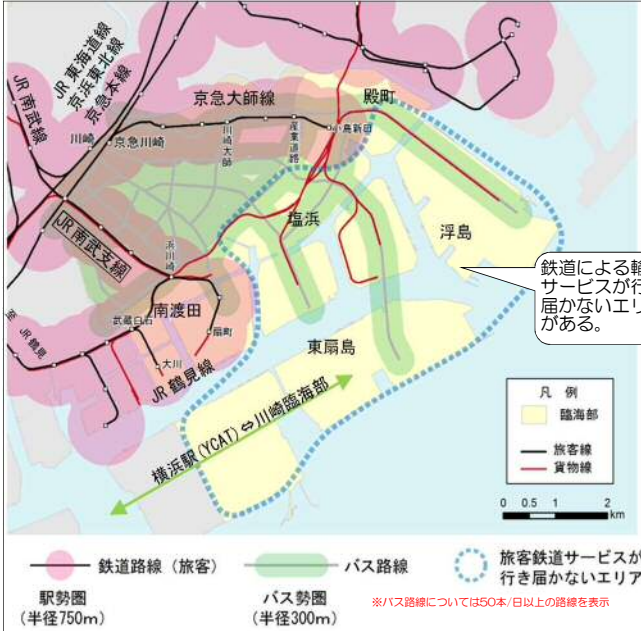
出典：「日本産業の動向(中期見通し)(鉄鋼)」(みずほ銀行 平成27年12月)

都市基盤・交通ネットワーク

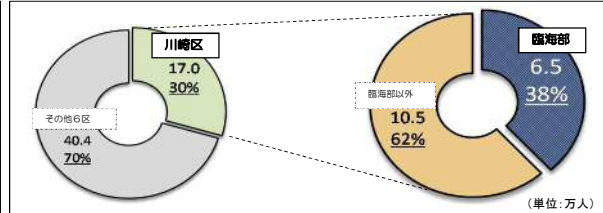
概要 背景 取組 成果 まとめ

- かつては企業の寮や社宅が川崎区内にあり、職住近接が実現していたが、現在は区外から通勤する人が多く、通勤アクセスの悪さが課題となっている

旅客鉄道・路線バスのサービス範囲



川崎市と川崎区・臨海部の従業者数



川崎駅から臨海部への路線バス利用割合イメージ（地区別）

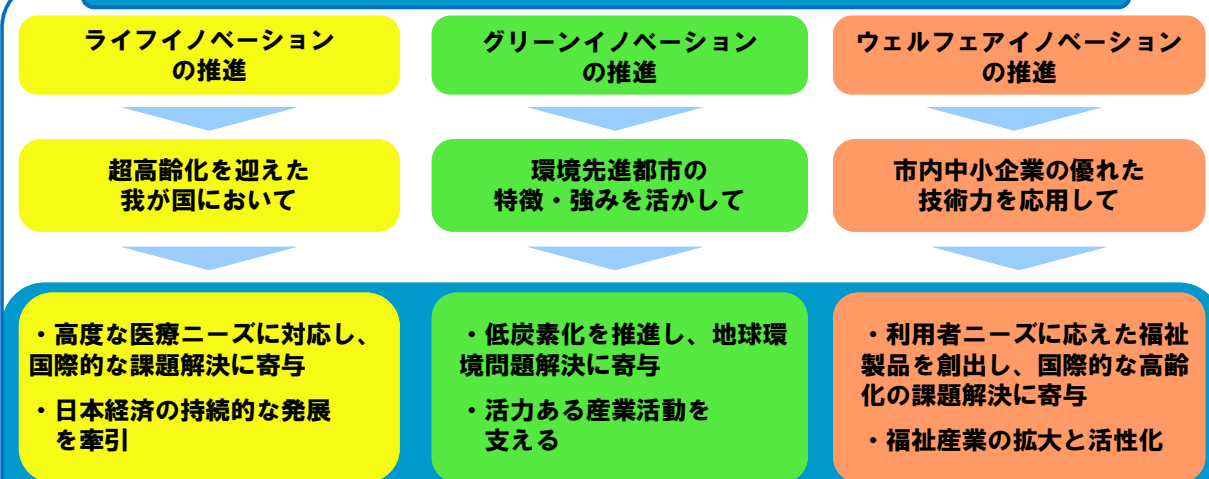


成長が期待される産業分野

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 市では、ライフ・グリーン・ウェルフェアの3つのイノベーションを推進
- キングスカイフロントは誘致と拠点形成の段階を終え、融合による価値向上の段階に入っている
- ライフサイエンス分野に取り組む重化学系企業が増えている

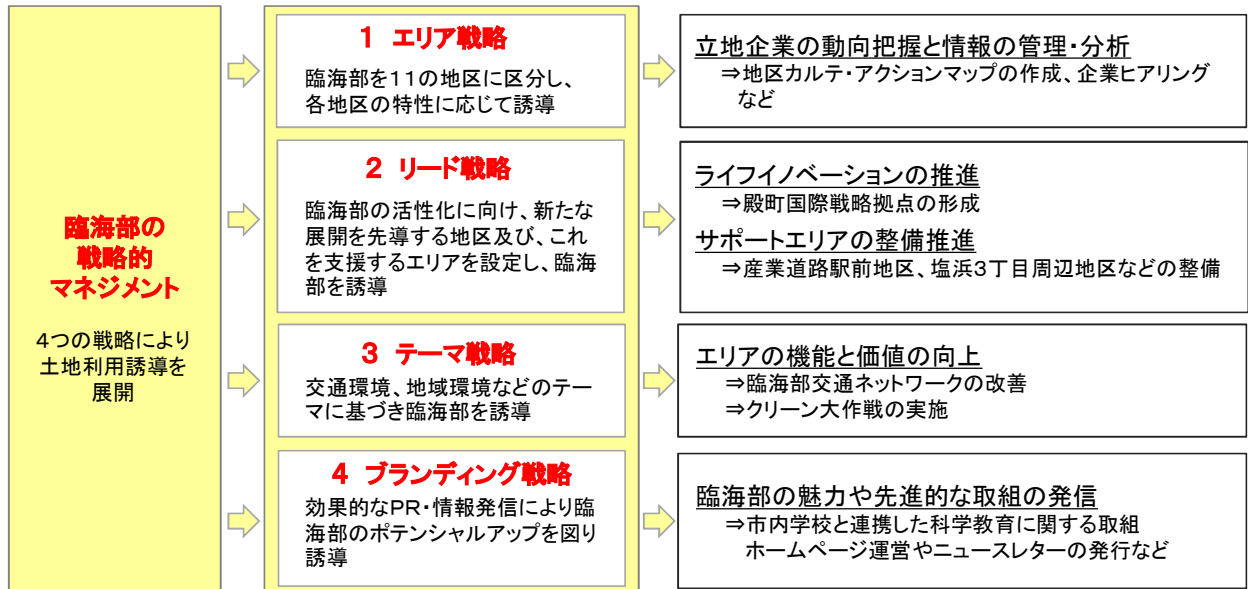
成長が期待される産業分野における取組の推進が重要



国際貢献と産業創出

臨海部の戦略的マネジメント

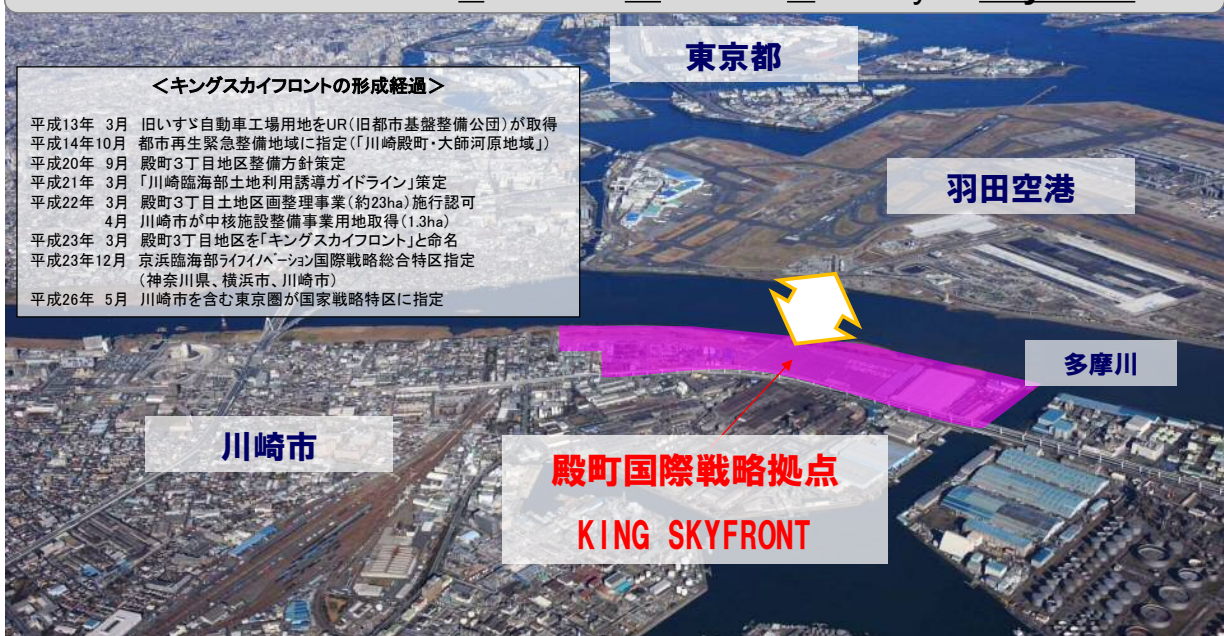
- 日本経済の発展を牽引するとともに、本市の「力強い産業都市づくり」の中心の役割を担う臨海部の持続的な発展に向けて、戦略的なマネジメントを推進する



新たな産業拠点の形成

- 今後成長が見込まれ、世界が直面している課題の解決に貢献するライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点「殿町国際戦略拠点キング スカイフロント」の形成

KING SKYFRONT = Kawasaki INnovation Gateway at SkyFront



殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」

概要 背景 取組 成果 まとめ

- キングスカイフロントは、世界最高水準の科学技術が集積し、研究開発から新産業を次々と創出することを目指す、オープンイノベーション拠点です

実験動物中央研究所



医療・新薬の有効性確認・安全性検証のために必要不可欠な、最先端の研究基盤の開発と実用化に取り組む

ナノ医療イノベーションセンター (iCONM)



ウイルスサイズの「ナノマシン」を使った、難治がんやアルツハイマー病などの診断・治療技術の研究開発を行う

川崎生命科学・環境研究センター (LiSE)



川崎市の研究機関のほか、ライフサイエンス関連の民間企業等が入居する複合施設

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
東京サイエンスセンター



医療従事者向けの医療機器の安全適正使用のための実践的なトレーニング施設であると同時に、アジア圏におけるR&D機能の拠点

国際戦略拠点の形成に向けた取組①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 立地企業・機関・大学等が有機的に交流・連携し、相乗効果によりイノベーションを創出し、優れたシーズの実用化を図ることで、世界的なイノベーション拠点への成長を目指す

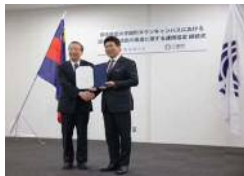
イノベーションの成果を生み出す	産業波及を生み出す 市内中小企業、臨海部立地企業 国内外
<ul style="list-style-type: none"> 必要なプレイヤーの誘致 連携の仕組みづくり 研究開発活動の支援 人材育成活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携 産産連携 研究成果の産業化
<ul style="list-style-type: none"> 環境整備 エリアの価値向上 市民理解・市民への還元 	

慶應義塾大学殿町タウンキャンパス (平成28年4月開設)

新川崎タウンキャンパスに次ぐ川崎市内では2つめのタウンキャンパス (慶應大としては3つめ) をLiSE内に開設。
平成29年度にキャンパスを機能拡充し、融合研究に本格的に取り組む予定。

○主な取組

文科省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の中核的教育研究クラスターのうち、「長寿」クラスターの拠点の1つとして、遺伝子レベルの基礎研究から予防医療や医療の質に関する研究まで、幅広く健康長寿の実現につながる研究を展開。

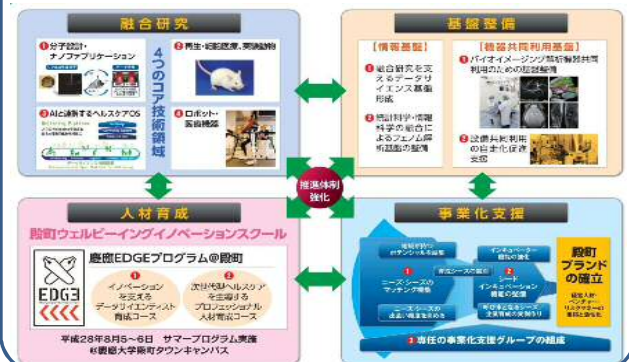


リサーチコンプレックス推進プログラム (平成28年9月本採択)

キングスカイフロントの拠点形成の概成を踏まえ、JST (科学技術振興機構) 「リサーチコンプレックス推進プログラム」を活用し、イノベーションと産業波及を次々と生み出すエリアになるよう、融合研究、事業化支援、基盤整備、人材育成等の事業に取り組む。

○提案主体

中核機関：慶應義塾大学
自治体：川崎市、神奈川県、横浜市、大田区
大学等：東京大学、東京工業大学、横浜市立大学
企業：富士フイルム株式会社、CYBERDYNE株式会社



国際戦略拠点の形成に向けた取組②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- キングスカイフロントでは、次代を担う生徒たちと最先端の研究者との交流の場づくり、科学技術に対する興味・関心を持つきっかけづくりに取り組んでいる

市内の学校と連携した科学教育に関する取組

○立地する研究機関の協力を受けて、市内の中学生、高校生向けにキャリア教育の一環として研究施設見学会や外国人研究者との交流会などを実施



7月 川崎総合科学高等学校 科学科 2年生
10月 橋高等学校 国際科 2年生
3月 市立川崎高校附属中学校 2年生

○地元の川崎にこんなにすごい施設があることを初めて知りました。科学の分野に進んで、将来ここで研究したいと思った。
○自分の住んでいる川崎にこんな最先端の研究拠点があるなんて、とても誇らしく思えました。
○近い将来、この場所から人類の医療に貢献する成果が生まれるなんてワクワクしました。

サイエンスカフェ

○キングスカイフロントで最先端の研究に取り組む若手研究者と高校生が科学研究の可能性について語り合う「サイエンスカフェ」を開催



12月9日 川崎総合科学高等学校 科学部員ほか 25名
ゲスト:実験動物中央研究所 井上 貴史 室長
テーマ:医学研究に貢献する小型サル「コモナーモセット」

○お菓子を食べながらリラックスした雰囲気だったので、研究者に聞きたいことが聞けて楽しかった。
○学校の授業では得られない、研究現場の方と直接話ができる貴重な体験ができて、また来たいと思った。
○このような機会を作っていただきありがたかった。もっとたくさんの人に知ってもらえるといいと思った。

国際戦略拠点の形成に向けた取組③

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 国際戦略拠点に相応しい高水準・高機能な拠点整備を進めるとともに、羽田空港跡地地区と連携を強化した一体的な取組により、世界的な成長戦略拠点を目指す

ホテル (平成30年4月運営開始予定)

国際戦略拠点形成のさらなる推進に向けて、キングスカイフロントの研究活動を活性化させる交流促進機能、生活便利・リフレッシュ機能としてホテルを導入することとしており、そのホテル運営事業者が決定。

- ・運営会社 : 株式会社東急ホテルズ
- ・規模 : 5階建て (約200室) ・延床面積 : 約7,530㎡
- ・施設構成 : ホテル、カフェ、バー・レストラン、スパ・フィットネス他



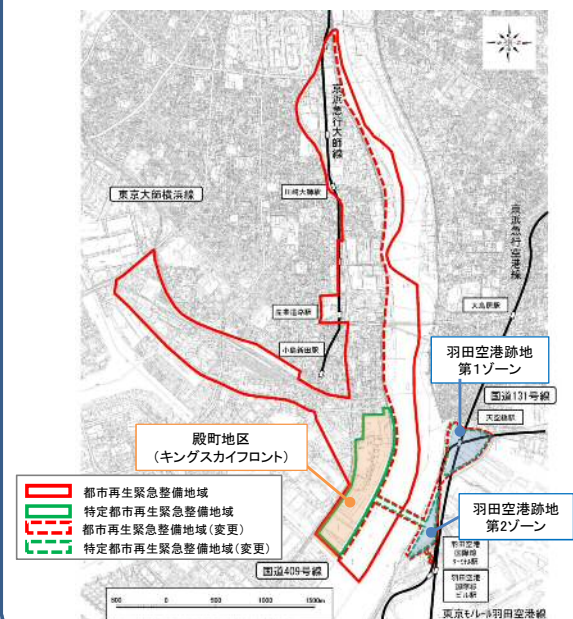
高水準・高機能なまち並み形成

良好な景観形成、研究者等の交流促進や国内外からの来訪者の利便性に配慮した機能など、国際戦略拠点に相応しい高水準・高機能な拠点整備の取組を推進。



都市再生緊急整備地域の区域拡大 (平成28年11月地域指定)

殿町発の拠点形成が東京側に広がり、羽田空港跡地地区との連携を強化した一体的な取組により、世界的な成長戦略拠点の形成を目指す。行政境を越えた緊急整備地域の指定は日本初。



国際戦略拠点の形成に向けた取組④

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 2020年（平成32年）を目指した成長戦略拠点の形成を支えるインフラとして、羽田空港跡地地区（環状第8号線）と川崎市殿町地区（国道409号線）を結び、多摩川を橋りょうにて渡河する延長約870m、標準幅員17.3mの連絡道路として整備

羽田連絡道路（平成32年度：2020年完成予定）

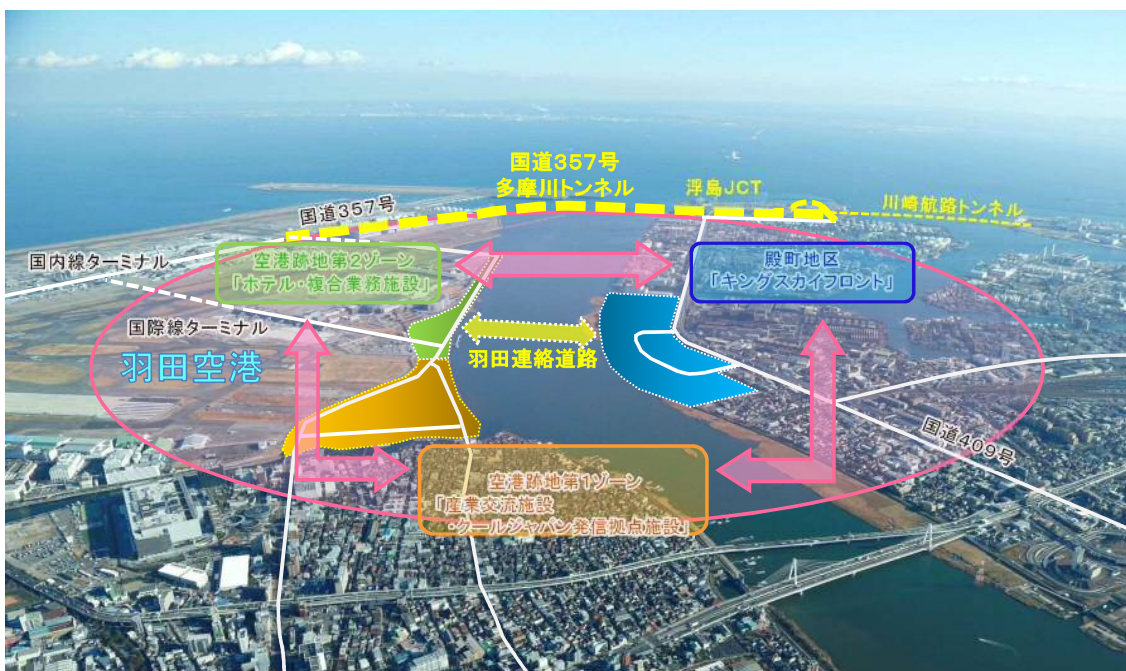


出典：第3回「羽田空港周辺・京浜臨海部連携強化推進委員会」の資料より抜粋

羽田空港周辺と連携した一体的な成長戦略拠点の形成①

概要 背景 取組 成果 まとめ

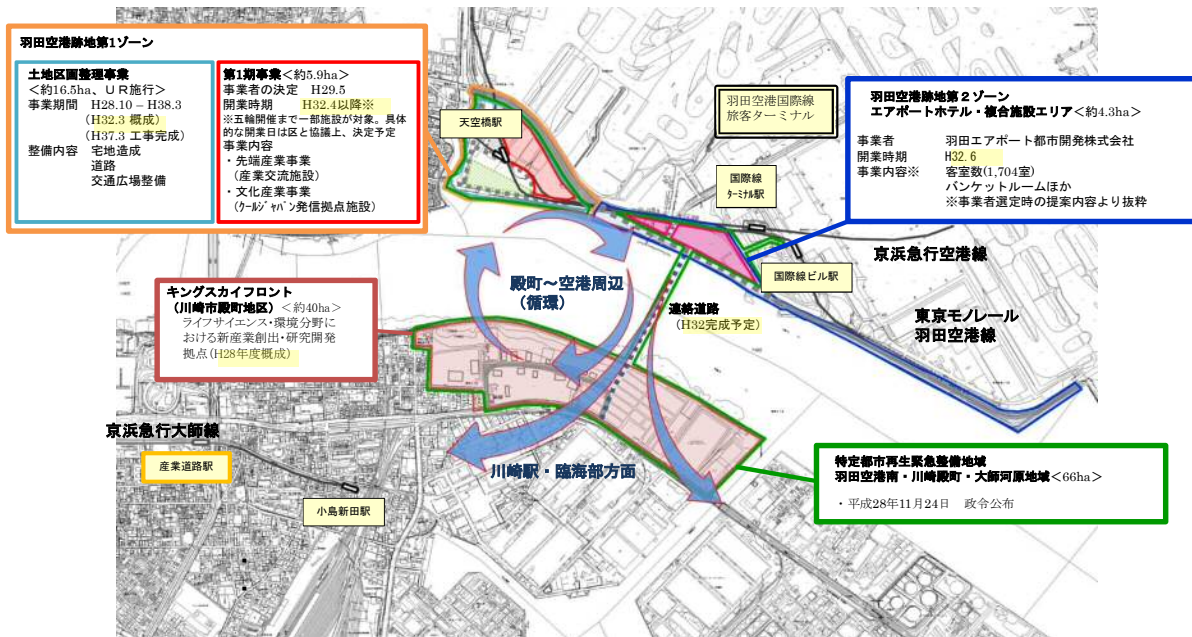
- 国家戦略特区の重要なエリアとして、羽田空港周辺地区と連携強化で相乗効果を高め、日本の国際競争力を強化



羽田空港周辺と連携した一体的な成長戦略拠点の形成②

概要 背景 取組 成果 まとめ

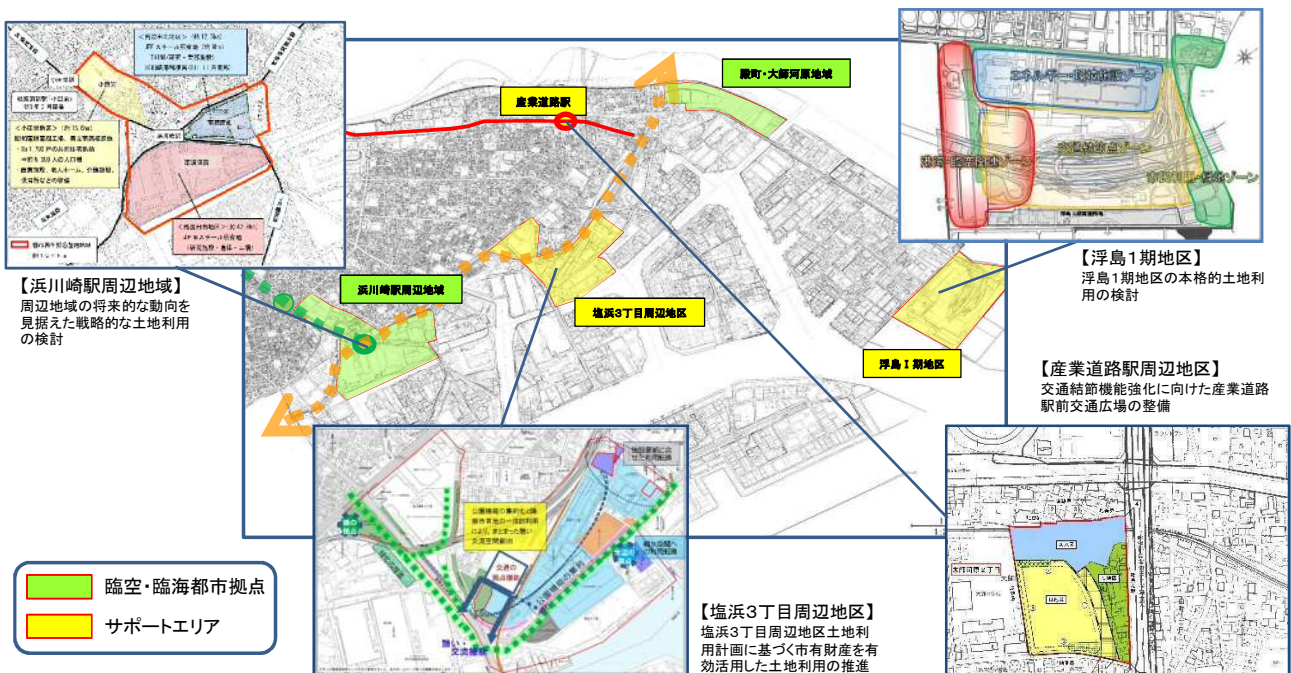
- 平成32年を目指した成長戦略拠点の形成に向けて、土地利用や基盤整備が進捗
- これら整備に併せて、キングスカイフロントや臨海部と空港周辺を結ぶバス路線の新設などの交通ネットワークを検討



臨海部における戦略的な土地利用の推進

概要 背景 取組 成果 まとめ

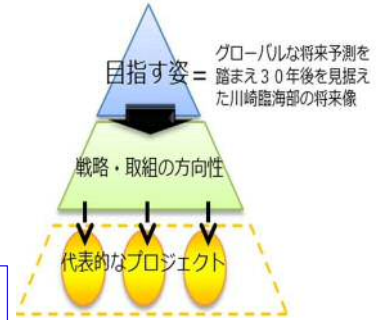
- 臨空・臨海都市拠点の整備・・・殿町・大師河原地域、浜川崎駅周辺地域
- サポートエリアの整備・・・塩浜3丁目周辺地区、産業道路駅周辺地区、浮島1期地区



「臨海部ビジョン」の策定

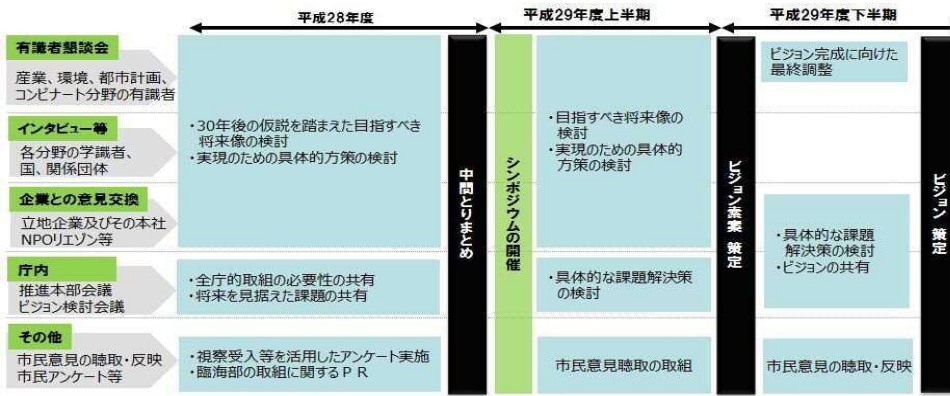
概要 背景 取組 成果 まとめ

- 本市における「力強い産業都市づくり」の中心の役割を担う川崎臨海部を、これからの日本の成長を牽引する「産業と環境が高度に調和する地域」として、持続的に発展させるため、30年後を見据えた臨海部の目指すべき将来像やその実現に向けた戦略、取組の方向性を示す（H28、29で策定）



【策定に向けた進め方】

有識者懇談会や庁内会議に加え、企業活動現場との意見交換や多様な関係者へのインタビューを重点的に行うなど、本市と企業が長期的に目指すべき将来像の共有を図りながら検討を進める。



成果指標①の成果分析(目標未達成)

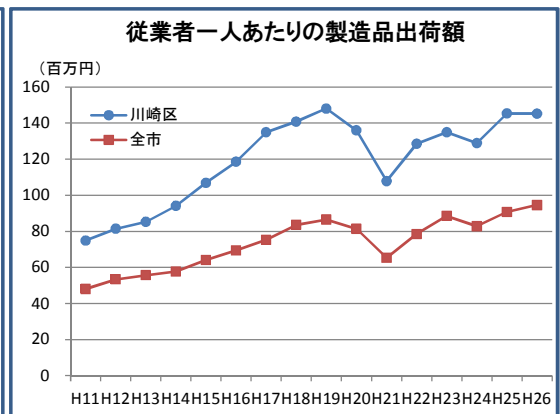
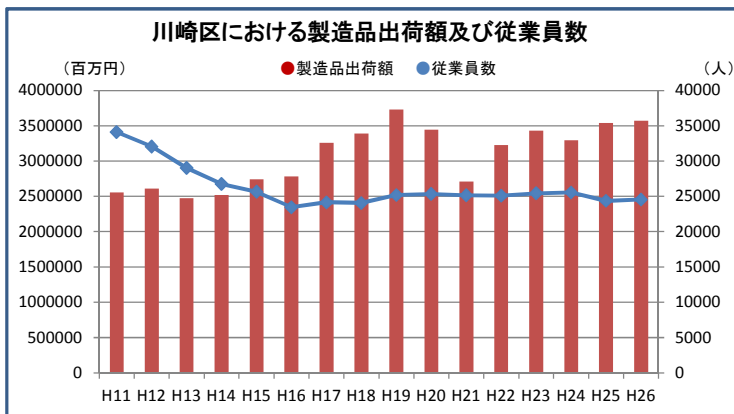
概要 背景 取組 成果 まとめ

川崎区の従業者一人あたりの製造品出荷額

- 製造品出荷額については、全体の過半数を占める石油・化学産業において、化学産業が大きく増加(7.5%)する一方で、石油産業が減額(△5.4%)に転じたため、前年比で微増にとどまっている
- 従業員数については、市全体では前年比で1.4%の減となっておりますが、川崎区では0.8%の増となっている
- 以上の状況から川崎区における従業者一人あたりの製造品出荷額を算定すると、前年比で0.2%の微増となっている

	H28
目標	15,100万円
実績	14,527万円
現状値	14,500万円 (H25)

※実績値はH26の数値にて算出



成果指標②の達成状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

キングスカイフロント立地事業所累計数

- 慶應義塾大学殿町キャンパスの設置や分譲地における企業の運営開始とともに、ライフィノベーションセンターの運用開始により、13機関の入居が決定し運営開始するなど目標値を達成している

	H28
目標	17事業所
実績	29事業所
現状値	13事業所(H27)



運営開始	内訳
平成23年7月	実験動物中央研究所
平成25年3月	川崎市生命科学・環境研究センター(LISE)【大成建設】
平成25年3月	天然素材探索研究所(@LISE)
平成25年3月	川崎市健康安全研究所(@LISE)
平成25年3月	川崎市環境総合研究所(@LISE)
平成25年4月	神奈川県科学技術アカデミー(KAST) (@LISE)
平成25年4月	SRL (@LISE)
平成26年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン
平成27年4月	ナノ医療イノベーションセンター(川崎市産業振興財団)
平成27年5月	ソルベイ日華(株) (@LISE)
平成27年4月	ニコン (@ICNM)
平成27年7月	ナノキャリア (@ICNM)
平成27年9月	興和 (@ICNM)
平成28年1月	アルパコーポレーション (@LISE)
平成28年4月	慶應義塾大学殿町タウンキャンパス
平成28年6月	LabPMM(ラボピーエムエム) (@LISE)
平成28年6月	クリエートメディック
平成28年8月	ライフィノベーションセンター【13機関運営開始】※平成29年3月現在

施策の進捗状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

施策の進捗状況 A 順調に推移(目標達成している)

理由

- ① 施策配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。
- ② 川崎区における従業者一人あたりの製造品出荷額は、目標数値に到達していないものの、前値比では微増となっており、引き続き目標達成に向けて事業を推進します。
- ③ キングスカイフロント立地事業所累計数は、国際戦略拠点形成に向けた土地利用の誘導や企業への誘致を図ることにより目標を達成しました。

【施策の進捗状況区分】 A 順調に推移(目標達成している)、B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)
C 進捗は遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)、D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)

今後の方向性

I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)

理由

- ① 拠点形成や交通機能の強化に向けたこれまでの取組を踏まえ、サポートエリアや羽田連絡道路(H29工事着手予定)の整備について、引き続き関係機関と協議調整や検討を図りながら事業を進めていきます。
- ② (仮称)臨海部ビジョン(H29策定)を契機として、長期的な視点で事業を進めるため、関係機関と調整を図りながら課題を整理し、効果的な事業の進め方を検討していきます。
- ③ キングスカイフロントにおける拠点マネジメント機能を強化するため、マネジメントセンターを移転、拡充し、拠点内外の交流・連携を促進する場の整備を進めるとともに、マネジメント体制の構築に向けた事業手法等の検討を進めていきます。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
III あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、IV 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市